

私たちの司法と裁判員制度

～人権を守るしくみとしての司法制度～

本単元で育成する資質・能力

主体性 協働性

1 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領社会公民的分野 C 私たちと政治における「(2)民主政治と政治参加」を受けて設定した単元である。本単元では、「国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解する」とともに、「司法に対する理解を深め、司法参加の意義について考察させる」ことを目指している。

私たちは日々、様々な事件・事故を新聞やテレビのニュースの報道で知ることができる。また、裁判についての情報もテレビのドラマや漫画などで扱われることで身近なものとなっている。しかし、生徒にとってその裁判が人権を守るしくみとして重要な働きをしているところまでは実感できていないと思われる。また、2009年から始まった裁判員制度により、将来、自らが裁判員として刑事裁判にかかわり、人権を守るしくみに主体的にかかわることとなる。そこで、この本単元では裁判員制度のしくみを生徒に理解させ、実際の事件例を基に裁判官の立場を模擬体験させることで、司法の判断が人権を守る重要なしくみであることを感じさせたい。

(2) 生徒観

本学級は、男女の仲もよく、普段の授業から活発に発言に取り組む生徒が多い。しかし、社会科を苦手と捉える生徒もおり、特に学力的に低い生徒に焦点をあて、授業においては普段から気軽な話題から導入し、学級全体で課題に捉えることができるように心がけている。

「裁判」について授業を実施するにあたり、生徒の意識を知るために次の質問をアンケートで調査した。

- 質問1 裁判について、新聞やテレビのニュースで見たり、聞いたりすることがある。
 質問2 裁判に関わるテレビ・ドラマをよく見る。
 質問3 裁判に登場する人物（役割）を知っている。
 質問4 裁判官が判決を出すとき、何を基に出すか知っている。

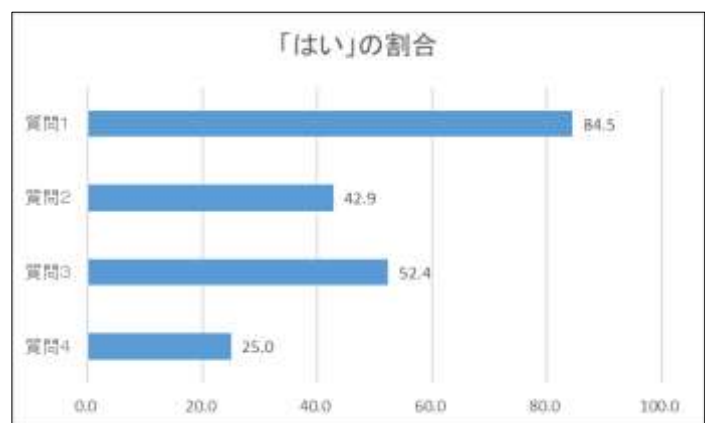
質問1は「裁判」に対する興味・関心を、質問2は意識して「裁判」に関わる情報を得ようとしているかを、質問3は「裁判」しくみに対する知識を、質問4は「裁判官」が判決を決めるときの判断材料が何か推測できるかどうかを問う質問である。アンケートの結果は、次のとおりである。

この結果から、本学年の生徒は質問1の結果から「裁判」に対するニュースに対し興味・関心をもっている生徒の割合が高いことがわかる。しかし、質問2から意図的に「裁判」に関わる情報を得ようとする生徒は半数以下である。

また、質問3から新聞やテレビのニュースやドラマ等から半数以上の生徒は「裁判」に関わる被告（人）[犯人]・裁判官・検察官・弁護士（人）等の情報をもっていることがわかる。

最後の質問4は、「何を基に」と生徒によって受け取り方が変わる質問である。「はい」と答えた生徒に「何を基に」をどう捉えたか尋ねると、「憲法・法律・法」が多かったが、その他、「証拠・証言・罪状・出来事・みんなの意見」という捉えもあった。質問4を「はい」と答えた生徒は、全体の4分の1程度ではあるが裁判官が判決を下すとき、法に基づき、様々な証拠や意見を基に判断していると考えているようである。

よって生徒に「国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解」させるとき、裁判制度のしくみを理解させながら、被告人の人権を守るために裁判官が法に基づき事件を多面的・多角的に判断し、判決を下していることを理解させる必要がある。



また、裁判で有罪判決が出ない限り被告人は、無罪であることも押さえておきたい。(推定無罪)

(3) 指導観

指導方法の工夫・改善として、次の3点を取り入れる。

【①課題提示の工夫】

これまでの授業では、ワークシートを準備して、その中に本時に取り組む課題を載せて配布していた。そのため、学力的に高い生徒は今後の展開を見抜き、学力的に低い生徒は学習意欲を減退させることが多かった。

そこで、本時に取り組む課題は別紙とし、小集団を構成した後に「Today's Mission」として黒封筒に入れ配布する。

また、事件の設定が理解しやすいように人気漫画の一場面を用い、モニターを使用しパワーポイントで提示することで、生徒へ視覚的に伝える工夫をする。

【②小集団での思考】

小集団での思考のメリットは、少人数なので話しやすく話が深まりやすいことである。また、話し合いに参加しないで過ごす生徒が出にくくなるという良さもある。これにより多様な意見が出しやすくなり、個人思考も深まりやすい。しかし、話し合いのパターンに慣れてくることで集団内での役割分担や立場が固定し、話し合いを積極的に参加しない者が出てくる傾向がある。そこで話し合いを進める際に、司会者や発表者が毎回、同一人物にならないように工夫する。

このように意図的に対話を設定することで多面的・多角的な思考を促し、自己判断させることで「深い学び」につながる学習としたい。

【③振り返りの充実】

授業の終わりにペア学習として、授業内容を振り返らせ意見交流させる。その後、各自のワークシートの振り返り欄に自分の振り返りを記入させる。なお、時間に余裕があれば、机間指導中に振り返りを記述した生徒の記述内容を確認し、全体場で指名し、振り返りを発表させることで、本時のまとめとしたい。

また、本単元の初めに、単元を貫く問いとして、「なぜ、裁判員として国民が司法に参加しなくてはならないのか」と問いかけ、毎時間の終わりに問いの答えにどれだけ近づいたか確認できるように工夫する。

2 単元の目標

- 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、憲法のもとに法律が制定されていることを理解する。
- 人権を守るために、法に基づく公正な裁判の保障が必要であることを主体的に考え、判断力を養う。

3 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用 of 技能	エ 社会的事象についての知識・理解
・裁判を公正に行うため、法律に基づく必要性があることに関心をもち、主体的に考えようとしている。	・一つの裁判につき、被告人には最大三回審理を行う権利がある理由を説明できる。 ・判決について「対立と合意、効率と公正」の視点から思考し、多面的・多角的に判断している。	・提示された資料を適切に活用して、判断するための材料としている。 ・裁判員制度のしくみを資料から読み取り、判断するための材料としている。	・人権を守るためには、法律に基づく公正な裁判が必要であることを理解している。

4 本単元において育成しようとする資質・能力との関わり

本単元の指導において取り入れる活動を通して育成する資質・能力は次の通りである。

学習活動	育成する資質能力	具体的な姿
立場を置き換えることで、主体的に判断する	主体性	・自分を裁判官の立場に置き換え、具体的な事例から刑事裁判の臨むことで公正な判決を出そうとする。
話し合い活動を通して課題を追究し、結論をもつ	協働性	・小集団での意見交流を通して、多面的・多角的に考察し、自分なりの結論を出すことができる。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価					
			関	思	技	知	評価規準 (評価方法)	資質・能力を発揮している 具体的な姿と発揮させる ための手立て
1	1	<p>課題の設定</p> <p>○裁判を公正に行うため、法律に基づく必要性があることに関心を持ち、主体的に考えようとしている。</p> <p>◎一つの裁判につき、被告人には最大三回審理を行う権利がある理由を説明できる。</p>	○	◎			<p>○刑事裁判と民事裁判の違いを資料から読み取っている。【技】 (ワークシート)</p> <p>◎三審制のしくみを理解し、人権を守るしくみを考察している。【思】 (ワークシート)</p>	<p>・資料から刑事裁判と民事裁判の違いを読み取り、人権を守るしくみとしての三審制について考察している。</p>
2	2 本時	<p>情報の収集 整理・分析</p> <p>○提示された資料を適切に活用して、判断するための材料としている。</p> <p>◎判決について「対立と合意、効率と公正」の視点から思考し、多面的・多角的に判断している。</p>		◎	○		<p>○提示された資料を読み解き、考察の材料にしている。【技】 (行動観察)</p> <p>◎小集団での話し合いに主体的に取り組み、刑罰を考え、自分なりの結論もっている。【思】 (ワークシート)</p>	<p>・裁判官が判決を出すときの考察の過程を体感させる。</p>
3	3	<p>整理・分析 まとめ・創造・表現</p> <p>○裁判員制度のしくみを資料から読み取り、判断するための材料としている。</p> <p>◎人権を守るためには、法律に基づく公正な裁判が必要であることを理解している。</p>			○	◎	<p>○裁判員制度のしくみについて、情報を収集し、まとめている。【技】 (行動観察)</p> <p>◎裁判制度が人権を守るしくみとして工夫されていることを理解している。【理】 (ワークシート)</p>	<p>・人権を守るしくみとして裁判や裁判員制度が行われていることを理解している。</p>

6 本時の学習 (2/3時間)

本時の目標：提示された資料から、小集団で思考・判断し、自己の判断につなげる。

	学 習 活 動	指導上の留意点 (○) 配慮を要する生徒への支援 (◆)	評価規準 教科の指導事項 (○) 資質・能力を発揮している姿と発揮させるための手立て (★)
導入 (5分)	1 刑事裁判が行われるとき、必要な役割は何か。 (復習)	○裁判所の写真をモニターで提示する。	★既習内容を思い出しながら、役割を発表する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">【めあて】 キミが裁判官なら、何を基に被告人にどんな判決を下しますか。</div> 2 被告人を裁くとき、検察と弁護人からの情報が提供され、裁判官が無罪か有罪か、そして有罪なら刑罰を考えます。(18分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">ある事件をもとに刑罰を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名探偵コナンをもとにストーリー立てて、パワーポイントで事件のあらすじを説明。 ・今回は、犯人が分かっている(有罪)ので刑罰を考える。 ・裁判官として、判決を下すときのポイントを全体に確認する。(重すぎ、軽すぎ…) ・「対立と合意、効率と公正」の視点をもたせる。 </div>	○具体的な事例を漫画・パワーポイントを活用しながら提示する。 ◆生徒のストーリーの理解を確認しながら、理解できていないところを補足する。 ○指令書の中に、判決の選択肢を書き入れる。 ① 死刑 ② 無期懲役 ③ 懲役20年 ④ 懲役12年 ⑤ 懲役3年 執行猶予5年	○提示された資料を読み解き、考察の材料にしている。 【技】 (行動観察) ★自分の考えをもち、意見交流する中で考えを深めている。
展開 (40分)	3 小集団にして、判決を考え、ホワイトボードに書き入れる。(10分)	○判例の資料を途中で追加配布する。	○小集団での話し合いに主体的に取り組み、刑罰を考え、自分なりの結論をもっている。 【思】 (ワークシート)
	①資料なし ②判例資料追加		
	4 ホワイトボードを黒板に張り、なぜ、その判決にしたか理由を発表する。(8分)	○机間指導しながら発表者を選考する。	★自分たちの小集団にない意見を興味深く聞き、違いを考え、質問する。
	5 各小集団の考えを基に、再度、自分なりの判決を下す。一人一回伏せて挙手させる。(2分)		
6 どの判決が多く支持されたか、確認する。(2分)			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【まとめ】 裁判官は、事件の背景や被害者と被告人の双方の心情等を正確に把握した上で、双方が納得できるように法律に基づいた公正な判決を下すことが望ましい。</div>		
まとめ (5分)	7 授業の感想を隣同士(ペア学習)で交流させる。授業の振り返りをワークシートに記入させる。		★もう一度、裁判所の写真をモニターに提示する。
	8 発表者の考えを聞き、自己の考えを深める。		★ホワイトボードで再確認させる。

※時間があれば、逮捕・拘留後、無罪になった場合に、どのように人権を制限したことに対し補償するか質問する。